

試験研究（事前）評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター

所 管 課（室） 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	持続性の高い生産方式の導入	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	有機栽培等による野菜の品質向上技術の開発と品質評価手法の確立	野菜の有機成分の吸収特性を把握するとともに、有機質肥料施用による土壌中の有機成分の変化及び、野菜の品質への影響を明らかにし、より高品質（栄養成分、香り等）な野菜生産につながる肥培管理技術を確立する。	1 有機成分の吸収しやすい野菜の検索 2 高品質野菜生産のための有機質肥料等施用 技術の確立 3 有機栽培等による野菜品質評価手法の確立	21	25	A	本県の農業振興にあたり解明すべき重要な研究開発課題であり、積極的に実施するべきである。	本課題は重要であると考えられるが、有機成分を吸収するとされる野菜においても、高分子タンパク質由来であるPEONを吸うという知見もあるが、アミノ酸程度の低分子しか吸わず、PEONは吸わないとする報告もあり、意見の分かれている分野であるので、既報を充分検討して誤りの無いように実験手法等、設定する必要がある。また、有機農業が野菜の品質に及ぼす影響については、分析サンプルの熟度を合わせる必要がある等、注意すべき点もあり、既報を充分に調べる必要がある。
2	持続性の高い生産方式の導入	環境保全型農林水産業を確定するための技術開発	地球温暖化等気象変動に伴う農作物への影響予測と対策技術の評価	本県の主要品目について、温暖化に伴う生育反応、既存の対応技術の影響を明らかにし、病虫害の発生を含めた総合的な対策および新たな産地形成について検討する。	主要作物の生育反応データの収集・解析および影響評価のシミュレーションモデルを作成する。既存の病虫害発生モデルを改良し、生育と併せて影響評価や対策技術を総合的に評価する。	21	25	A	変動する気象条件下において、先進的な手法・技術開発により、本県農業の維持・発展に寄与する。	温暖化に係わる試験研究は、大切な課題であり、研究の評価は妥当である。但し、温暖化に係わる研究は、既存作物の被害予測・対応技術の開発ばかりでなく、同時に新規可能作物の導入の検討も組み合わせるべきであり、多品目に及び点を考慮すべきである。
3	豊かで魅力ある農業の振興	経営管理技術及び生産・流通システムの高度化	食品産業と連携した高度な企業的経営(園芸)の創出	食品産業等と連携した規模で高度な経営管理を行っている経営における発展過程と加工用・業務用野菜の導入経過を県内外事例から整理・解析し、経営の高度化・多角化のために必要となる条件や導入効果を提示する。	食品産業等実需者へのアンケート、面接調査並びにこれら業界へ出荷している企業経営の実態調査等を行い、その特徴や将来性、経営の多角化、高度化のプロセス等を明らかにする。	21	23	A	業務加工用仕向けの生産販売モデルが作成されるなど、園芸産地育成プロジェクトや水田農業改革等各種振興計画を推進するうえでの研究ニーズは高い。	食品産業等との連携は、現在クラスター事業として具体化が迫られており、時機に合った研究であり、評価は妥当である。但し、連携すべき食品産業のタイプにより、産地消型と全国契約生産・流通型では、そのあり方が異なり、農協の流通戦略も視野に入れる必要がある。

試験研究機関名 林業研究センター

所 管 課（室） 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	有用遺伝資源の増殖技術の開発	広葉樹増殖技術の開発	広葉樹(ブナ科やサクラ類等)のつぎ木、さし木等による増殖技術を開発し、広葉樹の活着、発根、馴化の手法を確立する。	広葉樹の優良母樹を探索するとともに、つぎ木、さし木等による増殖技術を検討する。さらに、土壌馴化調査を行う。	21	25	A	広葉樹の増殖技術は今後の環境資源としての樹木の増殖に必要不可欠な技術であり、ニーズも高いので積極的に実施すべきである。	一部の天然記念物等広葉樹の枯損を受け、その遺伝資源を守るため、ブナ科やサクラ類等の広葉樹の増殖技術の開発を目指す研究内容である。研究当初に行われる優良母樹の探索の可否が、その後の研究推進の鍵となるように思われるが、研究ニーズは高く、研究計画も妥当であり、研究の実施により目的の達成が見込まれる。
2	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	ナツハゼ増殖技術の開発と優良品種選抜	ナツハゼのクローン増殖技術を開発し、優良品種の選抜を図ることにより、果実の加工販売につながる栽培技術の体系化に資する。	これまで困難とされてきたナツハゼの挿し木を中心にクローン増殖技術を開発し、野生株等の収集を行い、給養性等の面から優良な品種の選抜を行う。	21	25	A	ナツハゼについては高い食品機能性から注目度が高く、加えて栽培へのニーズも高まってきていることから、クローン増殖手法、優良品種の選抜等、栽培に向けた技術の開発を積極的に行うべきである。	ハイテクプラザ会津によるナツハゼ機能性研究を受け、ナツハゼの訴求性が高まる中で、その供給のための栽培技術の開発と体系化を目指す研究内容である。クローン増殖技術、優良品種選抜等が達成されれば、中山間地域振興の面からも意義深いと感じられ、研究の進展に期待が持たれる。

試験研究機関名 水産種苗研究所

所 管 課（室） 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	豊かで魅力ある水産業の振興	優良種苗・系統生産技術の開発	生物餌料生産技術改良試験	生物餌料の生産において、培養手法の効率化、安定化を図り、その技術を確立する。	市販の濃縮植物プランクトン(クロレラ)を餌料に用いたワムシの連続培養技術を確立するとともに、得られるワムシの餌料としての価値について、生物飼育試験により評価する。	21	23	B	本研究により、栽培漁業の効率の推進が期待されることから、実施すべきである。	ヒラメなどの種苗生産では、ワムシ(ふ化仔魚の最初の餌)の安定効率生産が課題であり、これをワムシへのクロレラ給餌により達成しようとする研究内容である。本クロレラ給餌技術の開発により、実際の種苗生産現場においてどの程度の生産コスト削減が達成されるのかの試算が必要と感じられるが、研究のニーズと妥当性は高く、本研究は実施されるべきであると判断される。